

台湾における元公学校教師たちによる談話

中 田 敏 夫

はじめに

台湾統治時代の国語教育の研究については、従来政策史的視点からのものが中心であった(注1)。教育理念、具体的施策の変遷等が文献資料を踏まえて記述されていく。言語政策を歴史的に位置付ける場合、その諸施策と理論的背景が研究の主領域を占めがちだが、しかし例えば具体的施策の選択・決定は、実施結果のフィードバック(実効性の検討)を踏まえてのものであるはずであり、教育現場での教授者と受容者の実態の解明は言語政策史研究の上で重要な意味を持つと考える。即ち、国語教育の具体的な展開と実施については、実はその施策の元に、教授者が何を考え、どのように実践し、その教育的効果が実際にどのようなものだったのかを解明して始めて位置付けられるものである。また、受容者である児童・生徒一人一人にとって例えば皇民化政策はどのように受入れられたのか、その実効性を受容者の視点に立って明確にすることで始めて施策の歴史的意味が跡付けられるのである。

皇民化政策の実践でもあった国語教育が、台湾においてどのような形で「日本人」を、そしてまた「日本的な文化・思考」を産んだのかを、特に教育現場に密着した形で、具体的に、教授者・受容者の視点から考えていくことが必要であろう(注2)。

このような意図を持ち、1996年夏台湾において、日本統治時代の国語教育の受容者であったと同時に教授者にもなった3名の方と筆者による談話収録の調査を行った(注3)。

本稿では、筆者の質問に3名の方が応える形で展開した談話のうち、3名の方が受容者の時代、即ち日本統治下において児童・生徒であった頃の生活状況・生活意識について尋ねた箇所を文字化して示す。これら資料には、先の観点からの分析、「個人」「生活」「口述」という論点を持ったライフストーリーの視点からの分析(注4)、日本語を獲得する過程で形成された思考方法あるいは社会認識の有り様を明らかにする社会言語学的分析、保持する具体的な日本語の性格を位置付ける記述言語学的分析など、いくつかの角度から分析を試みる必要がある。いずれも稿を改めて論ずることにしたい。

資料の概要

- 1 調査は1996年8月23日、南投県埔里鎮の現地で行われた。
- 2 本稿記載文字化部分は、筆者を含む4名による、約47分の連続する談話である。

(2)

3 談話の内容は、筆者の質問に応じ大きく4つに分れる。

①参考資料1(後掲) ー日本語の発音のむずかしさを記した統治時代の台湾人の生徒の作文ーを読んだ感想が述べられたあと、日本語習得のむずかしさ、皇民意識の有無、創氏改名の準備などが語られる。

②参考資料2(後掲) ー母語である台湾語に対する意識を綴った統治時代の台湾人の生徒の作文ーを読んだ上で、台湾語に対する当時の意識及び、現在マスコミで流される台湾語に対する感想が語られる。

③参考資料3(後掲) ー日本統治時代の善政と教育の結果台湾では今なお日本語が喜ばれていると説く国語教育者の戦後の回想録ーを読んだ上で、日本人教師の思い出、日本統治時代の治安の良さなどが語られる。

④童謡・唱歌、民話など子供の頃の生活の様子が語られる。

4 文字化にあたって注意した事項

- ・「実質的な発話」のひとつづきを一人の発話のユニットとし、それが終わるところで発話を分けた。別な話し手の「あいづちな発話」はそこに()で挿入して示した。発話中に別な話し手が「実質的な発話」を始めた場合、元の話し手が発話を完全に中断すれば、それを新たな発話とした。また元の話し手が一度中断して再開したりする場合も同様で、元の発話と再開した発話とを分けた。元の話し手が同時に継続した場合は、この発話が終わってから別な話し手の発話を示した。
- ・文の終りが下降調になっている場合、記号。を付し、上昇調の場合、記号?を付した。また、文の途中、間合いがある場合には、記号、を付した。
- ・読みやすくなることを第一義に考え、基本的には国語の所謂正書法のもとに漢字仮名交じりによって文字化した。その結果、発音が正確に表記しきれない面が残った。例) 僕は(実際は [bokuwa])、日本人(実際にはニホンジンとニッポンジンがありうる)。これを補うために、色々な読みが可能な場合できるだけ仮名を用いた。例) わたし・わたくし(「私」。あるいは問題の読みを持つ語の最初の出現の際にできるだけ発音を示した。例) 半年(ハンネン)。
- ・長音については、感動詞並びに長音化によって生じた音は、ーで示した。例) えーと、うーん、それでー(本来「それで」)、みーんな(本来「みんな」)。その他の語は音声的に長音で実現しても、正書法通りで示した(漢字表記含む)。例) いい(実際には [i:])、矯正(実際には [kjo:se:])
- ・発話の重なり(同時発話)については、二者ないしは三者の重なりが始まるそれぞれの箇所頭に||を付して示した。
- ・発話が続くべきところを中断してしまった場合、……で示した。これは本人の判断による場合と、別な話し手が割り込んでくるなどして遮られる場合とがある。
- ・言いかけてそれを言い直した場合には、言いかけた箇所を片仮名で示した。例) ショ少数派

- 注意を要する発音は〈 〉に片仮名で示した。例) 龍眼〈リュウガン〉
- 外来語、中国語、現地語は片仮名で示した。例) ホンパオ (「紅包」賄賂のこと)
- 笑い声など非言語的な行動は、(笑い) のように示した。
- 聞き取りにくい箇所は〔 〕で囲んで示す。最終的に聞き取り不能の箇所は空欄にして〔 〕のみを示した。
- 個人名など、公表することで支障が出ると判断されたことばは*で示した。
- 場面、文脈、特徴的音声、語形の意味などについての注は、【 】に入れて本文中に示した。

5 話し手の略歴

話し手3人は台中一中の同窓生であり、いずれも教職に就いた経験を持つ良き仲間である。本稿では氏名を伏せると同時に、略歴でも台中一中以外は具体名をあえて差し控えた。

話し手A：大正13年生まれ。男。台中市内の公学校（6年）、台中一中（5年）、進学のため来日し大学附属専門部（2年半）。卒業と同時にそのまま内地の日本企業に就職し、昭和21年3月帰台。その後台湾在住。4年間の高校での教員生活の他は会社関係勤務。

話し手B：大正12年生まれ。男。台中市内の公学校（6年）、台中一中（5年）、師範学校演習科（2年）。卒業後公学校教員に。戦後国民学校の教員。

話し手C：大正13年生まれ。男。埔里鎮の公学校（6年）、台中一中（5年）。卒業後公学校教員に。戦後国民学校の教員。

話し手N：筆者。

（注1）蔡茂豊『台湾における日本語教育の史的研究——八九五年～一九四五年——』（東呉大学日本文化研究所1989年）、近藤純子「戦前台湾における日本語教育」（『講座日本語と日本語教育15巻日本語教育の歴史』明治書院 1991年）など。

（注2）拙著「戦前台湾における国語教育研究の課題—事実を集積すること—」（愛知教育大学大学院『国語研究』4号 1996年）では、戦前台湾において生徒の書いた作文を通して当時の国語教育の実態の一端を明らかにし、併せて「事実を集積する」ことの必要性和有用性に触れた。作文とは、児童・生徒のものの方、世界観を明瞭に映すものであり、国語教育の実践によりどのような「皇民」が作られていったかを具体的に検証することが可能な重要な資料であると考えられる。

（注3）本調査は中京大学助教授酒井恵美子氏との共同調査で、酒井氏も調査の場に同席している。

（注4）佐藤健二「ライフヒストリー研究の位相」（『ライフヒストリーの社会学』弘文堂 1995年）による。

談話資料

- N：えーとですねいろいろあのー、おうかがいしたいことが、あのーたくさんあるんですけども時間があんまりないのでまずあのちょっとわりとめんどくさいことではないですか、眼鏡がないと読めないかなー？（笑い）読めますか？
- B：|| ちょっと……
- C：|| 明るかったら。
- N：あつ。まずですねこれはあのー、えーと、実はあのー1943年に、こー、要するにあのニホあの台湾で学校であのー、作文を書かせたんですね、|| 女子中学生に。
- A || うーん昔……
- N：でそのときに、作文書いたときのあの、子供の、これは女の子の作文なんですけども、でこんなことを作文……【手渡してあるプリント参考資料1を差し示し読んでもらっている】
- N：ちょっとこれを読んでいただいて、あの今こちらのこっちのことばのむずかしさ、その感想をちょっと教えていただきたい。子供のその頃の女子中学生が書いた作文なんですけど。ちょっとまず読んでいただいてどんな感想をお持ちか、ちょっと教えていただきたいんですけどね？
- A：これまさにこの通りです。
- N：あー。|| まーじゃーちょっと……
- A：|| 今でも今でもあの僕たちの文集にもひとり書いてました。【話し手Aたち台中一中の同窓生が最近編集した文集】
- N：あーそうですか？
- A：えー。やっぱりこれがむずかしくてずいぶん矯正されたと。（N：あー。）事実僕ら中学入ってからこれとっても矯正されたんですよ。（N：はー。）でー、どうしてかってゆうとあのー、今朝も話したように、台中一中とゆうのは台湾人が多いでしょ？
- N：はい。
- A：台湾人が多いもんだから（N：はい）こうゆこれが目につくんですね。
- N：はーはーはー、|| やっぱり……
- A：|| たとえば、台中二中へ入った台湾人だとあのーショ少数派だから先生もそれ気づかないわけですよ。（N：うんうん。）で自然にかえってあの例えば日本の中学出た人の方がこの発音だめなんですよ。（N：はー。）矯正されないから。（N：はー。）僕ら矯正されたもんねーあの（笑い）朝から晩まで。1年2年のときに随分矯正されるんですよ。こーゆうものばかりじゃなくて（N：なるほど）ことばづかいなんかね。（N：はー。）わたしたち宿舎に寄宿舎にいたんですけど、（N：うーん。）たとえばあのー切手を買うのに舎監から買うんですよ。（N：はーはーはー。）台湾のホ、台湾のあのー、言い方ですとねー（N：えー。）切手買いますと

ゆうんですよね、(N:あー)で先生切手買いますってゆうと、売らんでゆうんです。どうして売らんかなあって。(笑い)(N:あーなるほどね。)上級生に聞くと、(笑い)切手買いに行ったら先生売らんでゆってたって、あれ、おまえ間違いだ、切手下さいってゆうんだ。(N:||なるほどね。)||下さいってゆうのはただでもらうんじゃないんだ。(笑い)(N:||なるほどねー。)||下さいってゆわんと売らないんだってゆうんです。あーそうか。そうゆうことでね||だんだんだんだん訓練されてゆくんですね。

N: ||はーはー、あーそうですか。あの一そこにですね、あーと、……

A: ||どろどろ……

N: ||わたしもね日本人でないようにゆわれて涙がとめどもなく流れましたってあるんですが、【参考資料1】先生方はそんなこの子供の気持ちってゆうのはわかりますか?こんなふーに日本人じゃないってゆうふうになんか自分が……

A: もっとあとならね。だから僕たちが小学校とゆうのは大体昭和5年からジュウ10年ですから、(N:はい。)5年から10年11年でしょ?あの頃こんな気持ちないね。そのあとでしょ。戦争なつてから。(N:あー。)いわゆる皇民化がひどくなってから||たぶんこうゆう気持ちにサレさせられたと思うけど。

N: ||あーそーですか。なるほどねー。あの一、先生方は自分は日本人だってゆうふうにして小学校の頃育つたんでしょか。それとも台湾人だってゆうような、どんな気持ちで、あの子供の頃過ごしたんでしょか?

C: ||あれで公学校……

A: ||そうゆう意識はなかったみたいですねー。

C: わたしが勉強した学校は公学校で、(N:はい。)で、みーんな台湾人の方ですよ。

(N:はーはー。)あれで小学校とゆうのは別の学校で(N:はい。うんうん。)あんなだけ、まあ全クラスのうちわたしがいちばん年が少なかった。(N:ふーん。)と言いますといちばん、にぶいといますか(A:笑い)幼稚といますか、(N:はい。)日本人台湾人とゆう、(N:うん。)差別は僕にはわからなかったようです。(N:はー。)で同じ同窓生で、わたしより年がふたつみつよつつ上のお方はよくわかりますよ。(N:うん。)うん。でーやっぱり悪口なんか言いますよ。

N: うーん。そうですか。

C: えー。あれで5年生ですか?5年生になってから受験勉強とゆう、(N:うん。)のを始めてます。(N:はい。)あれで小学校の方は無論もう4年生くらいから受験勉強とゆうのをやってますよ。(N:はーはー。)これも今年になってから聞いたお話。僕なんかわからない。あれであのときの先生、担任ですね?(N:はい。)担任の先生なんかね、(N:はい。)公学校の方は電燈つけていけない。(N:はーはー。)えーえー電燈つけていけないとゆう意味はまあまだ日が明るいうちにもう放課させる。(N:なるほどね。)小学校の方は日が落ちてもいい。電燈つけると。

(6)

N：なるほどね。あーあーそうすると僕は……公学校の方にはですね（C：うん。）天皇の御真影とかそういうのなかったんですか？

A：|| いやありましたよ。みんな。

B：|| ありますよ。

N：ありました？

A：全部ありました。

N：でそれはあの朝こうお辞儀するとか、そういうのはどうだったんですか。天皇に。御真影に。

A：まあそうそうしろってゆわれるから行ったら敬礼して……

B：いわれるままにしていましたね。|| 疑問もなく……

A：|| 校門入るとき……

B：敬礼しろってゆうから……

C：ないない。|| 御真影なんてそんな……

A：|| ないかなあ……あったと思うな。

N：じゃ君が代なんかもやっぱり歌う？

B：|| やっぱりいっしょ。

A：|| そりやもう同じこと。全部同じです。

C：|| そりや歌う。

N：公学校でも？

A：えー。

C：うーん。あれで国旗掲揚もやる。

N：|| 国旗掲揚も……

A：|| ただカリキュラムが少し違うんですよ。

N：あー、|| みたいですわねー。

A：|| 小学校とゆうのはあの日本の全然同じ教科書使うわけです。

N：そうするとあの先生は日本人の先生は少なかったですか？

A：|| あとじゃ結構多かったですわねー。

C：|| うーんあのとき……

N：多かったですか？

B：|| そうですわねー……

C：|| いや多かったですよー。|| 多かったですよー。

N：|| そうするとその先生は皆さん方におまえたちはニホンジ日本人なんだぞってゆうような教え方をしませんでしたか？おまえたちは日本人だぞって。

A：まあそうゆうこと言いますけどねえ、普通の人はあんまり言わん。だいたい校長先生がゆうですわね。（笑い）

N：あっ || 校長先生……

C：|| いやーわたくしはまだ特別でねえ1年から3年までひとりの、(N：あー。) あの一*、*とゆう先生、台中師範出の。ぱりぱりの先生ですよ、台中師範出だから。4年から6年まで(A：また同じ。)(N：||はー。) || *とゆう、夕集集〈シューシュー〉【地名】のお方。(N：はい。) これも台中師範出。たったふたりの先生しかない。

N：はーはー。それはどちらも台湾の人だったんですか？

C：そうそう。ひとりが集集。ひとりが名間〈ナマ〉【地名】とゆうから南投〈ナントー〉【地名】ですね。ナンナン南投出。うーん、だから1年から3年までが受験勉強とゆうのがない。あれで4年から6年までは受験勉強とゆうのがある。この先生がときどきやっぱりおっしゃいますよ。うーん、小学校のかたはよくあたる。あれは特別待遇だから。【台湾在住の日本人の子弟が主に通った「小学校」からは、即ち日本人の場合中学進学が容易だったことを述べている】君たちは、ナンなんと言いますか昇学と言いますか？上級学校行くの、昇学と言いますか？でー随分と励まないとそうゆうチャンスがないんだ。(N：えー。||なるほどね。)|| えー。あれでさっきの電燈のお話。公学校は受験勉強やっていけない。(N：うんうん。) やっても1時間ぐらい。|| 放課後1時間ぐらい。(N：||あーなるほどね。)|| 小学校のほうは夜まで。*君。台北のお医者さん。同窓生。今年になってから(A：そうゆうこと書いて……) 手紙に書いてわたしに教えてくれた。

A：あっそう？

C：あの当時の僕はやっぱり幼稚だったらしい。(NA：笑い) うーん。わからないこ
うゆう || 差別差別待遇ね。

A：|| だからうんあまり気に|| 気にしないですね。

N：|| あーしないですね。

C：あれで*君は僕よりひとつだけ年上だけれど、(N：うーん。) うーん随分と彼氏のことばでゆうとませていた。

N：あー。|| あの一……

C：|| 僕僕はほめてた。君は僕よりずっと物知りだなあとこうほめたら、いやそうじゃなくて僕は君よりませていたよ。(NA：笑い)

N：なるほどね。あの僕ね今度お聞きしたかったのはあの一、皆さんは自分自身が教育の中で自分は日本人だとか台湾人だとかそうゆうのあまり意識なかったわけでしょうかねー。|| ドーB先生どうですか？

A：|| あんまりないですねー。

B：|| あんまりカンガエ考えたこともないし……

N：あっそうゆうことは？

B：えー。皇民化皇民化とってねー……

N：|| いいますけど……

(8)

C：|| いいや皇民化と言い出したのは……

B：もうみんなソーそうゆうふうな政策だから (N：えー。) わたくしたちもそうゆうふうに教えているわけですよ。

N：はーはーは。

B：えー。

A：だからさっきゆったようなああゆ上級生に呼び出されていじめられる以外は (B：笑い) (N：えー。) 本島人とか内地人とかあんまり考えないですねー。|| 普通だったら。

N：|| あーそうですか。

C：あれは中学行ったあと。(N：えー。)

A：|| 多少そうゆうあれはあるけど。

C：支那事変が始まったあと (N：えー。) || 皇民化運動が始まった。

A：|| うんだからそれがだんだん…… (N：あーあーあー。)

C：小学校時代 (N：なるほど。) ああゆう問題はなかった。

N：なるほどねーああそうですか。

C：えー。

A：あんまり感じないですね。わたしなんかそうゆ意識したことないですね。

N：ふーんああそうですか。

A：別に自分がニホ日本人だとか台湾人だとか (N：あー。) 意識しないですね。むしろ…… || むしろ大学出てからですね。(N：ふーん。)

C：|| 改姓名をしるとかなんとか、あれはみんな支那事変以後。中学3年生以後。

N：以後ですか？そのときは七皆さん方はそれが始めて自分は日本人だって思いこませるようなことはしたんですか？そんなことは……

A：|| 別に……

N：|| そこらへんの気持ちはどうだったんですか？

A：別にわたしなんかいいですねえ。

N：ないですか？B先生はいかがですか？

B：うーん昔はオシそうゆうふう教えられたから (N：はい。) こうゆうふう教えるんだと。(N：|| あー。) || だからまあ素直にま育ったわけですね。えー。疑問もなくて。(笑い)

A：いわゆるあの一改姓名のみよじを変えなさい、(N：えー。カエ……) とゆうのも台湾は朝鮮ほどひどくなかったみたいですね。(N：なるほどね。) 朝鮮の方はずっと強制的にやってみたいですね。(N：うんうん。) 台湾もやりましたけど。(N：うん。) で一結局物資が足りなくなっただけの特典とゆうのがあるわけです。(N：あーあーあー。) 日本名使うと配給量が|| 違う。(笑い) (N：|| なるほど。) そうゆそうゆうのがあったんですよ。(笑い) (N：あー。) そのあとたいした問題

……だから積極的にやる人とゆうのは少なかったんじゃないですか？

N：そうするとあれ先生B先生はやっぱり名前日本名は持ってたんですか？

B：えー。持っていましたよ。

N：|| そうすると……

B：|| 早く終戦したもんだから、(N：えー) それがもう半年〈ハンネン〉か1年なるともう改姓名が行われたわけだね。(N：はー。) わたし。もちろんある者は早い。わたし遅い方。田舎におったせいもあるかもしれないけどね。(N：はー|| そうですか。) || 自分は竹林〈タケバヤシ〉だとゆうことを予定しておったわけです。

N：|| はー。

A：|| それ予定して結局実現しなかったわけです。

B：|| もう1年か半年ぐらいなるともう正式にこの一改姓名したろうと思ってます。

N：そうするとあの一、ヤ師範を出て先生をやったときはあのB先生の名前で先生になってる？

B：そうそうそうそう。

A：結局最後最後までなんです。

N：最後まで結局？

B：えー。まあカワ変わらなかったわけです。

A：割りと台湾人にはそんなに強制力なかったみたいですよ。(N：あーそうですか。) わたしよく知りませんが。|| 僕のうちなんか……

B：|| まーカン勧誘するわけで勧めているだけで(N：うんうん。) 強制的ではなかったわけです。(N：あーなるほど。)

A：僕のうちなんか割りといろんなああゆ公職じゃないけど公職に近いシおやじがそういう仕事やってたけど(N：えー。) 要するにこうやるような気もなかったみたいですね。(笑い)(N：なるほどねー。) まあ強制されたらこういう名前にしようぐらいのあの一、案だけは|| 作ってた……

B：|| 準備だけはみんなしてた。

A：案だけは作ってたようですよ。

N：ああそうですか。やっぱりC先生もじゃあの日本名は持って……

C：持っていない。

N：持っていない？

C：そう。

N：あーそうですか。

C：|| あるときそうですねえ……

B：|| ある者はもう卒業証書ね卒業証書カエもう|| 日本の名前を、に変えてしまってる。

A：|| 日本名にして……

B：わたくしたちは変えてない。まだ変えてない。まだ正式じゃないわけ。(笑い)

N：あーそうですか。

C：あのとき僕たちのだいきらいなああの校長先生、*とゆうあれ。(A B：笑い) あれははじめから僕たち日本人でないと扱ってますよ。

B：*。

C：うーん。

N：そうですか。(笑い)

C：君たちは台湾人だ。

N：はー。あーそうですか？

C：えー。僕は日本人だ。(N：えー。) おまえたちは台湾人だ。(N：はー) なにが……あれ台湾人くさっとる。(N：ふーん。) 兵隊にもなれない。ならんでもよろしい。(A：笑い)

N：あーそうですか。

C：うん。

B：根性が違うと。(笑い)

C：そうよ。

N：あっそうですか？

C：|| うん。

B：|| 根性が違うと。

N：あっそうですか。

C：根性が違う。

N：校長が……(笑い)

C：だからうんははっきりとゆう。|| 君たちは台湾人。(N：|| はーん。えーえーえーえー) これこれこれこれこれ*君*君これは日本人。(N：ふーん。) 立派な日本人。(N：うん。) あんたがたは台湾人。

N：ソそれはどこの学校の先生？

C：|| 一中ですよー。

B：|| 一中。(笑い)

A：|| 台中一中のね。

N：あー一中の校長がね？

C：おー。おー。

A：あれはもうこちこちの国粹主義者でね。

N：あー|| そうでしたか。

C：あー。頭からそう決めてるから。うん。

N：なるほどねー。ああそうですか。あの一先生がたは台湾語はよく話せる話せたわけですか。

A：|| 話す方ですね。

C：||日本語よりへた。

A：そうね。(笑い)

B：使う機会は||少なかった。

N：||少なかった。子供のときはどうだった？やっぱり台湾語……

A：台湾語ですね。

C：へた。

N：へただったんですか？

A：まあ日常語とか普通のことば話す……

C：わたしは日本人とよくつきあっとったがために日本語の方があー、||しゃべりやすかったわけ。

A：||しゃべりやすいことはしゃべりやすいですね。だから僕はあとで、あとでまああの一応先生やったんですけど、台湾語で演説ぐらいはできるけど。(N：あー。)
(N：笑い)僕の娘がそうなんですよ。(N：はーはー)一応日常語しかできないんですよ台湾語は。ところが農事試験場行ってね、地方、指導に行くでしょ？そのうちに今台湾語うまいですよ。(笑い)(N：笑い)結構うまくなってる。

N：なるほどね。あの一このもう1枚のうしろの方にですね台湾語に対してですね、この一えーと後から4行目ぐらいでしょうか、台湾語を卑しむのはこう父母の使ってることばを卑しむことだって。だから即ち父母を卑しむような気がするんだけど、台湾語は上品なことばじゃなくってかえって子供の純真な心をなくする方だってゆってんですねえ。【参考資料2】たとえば皆さんは子供の頃台湾語に対してどんな気持ちで、この子供のような気持ちを持って……

A：ぜんぜんないですね。

N：そんな卑しむとかってことは||なかった？

A：||ないですね。要するにこのひとは台湾語しかわからないから台湾語使うと。(N：あーあー)我々の間ではまあ日本語の方がハナシ話しやすいから日本語を使うと。(N：うーん。)そんな程度ですね。(N：なるほどねー)どっちがいいとかどっちが悪いとかゆうことはないんですねー。(N：あー)いわゆる方便ですよ。(笑い)

C：あの子供のとき台湾語がいやしくって日本語がこう上品だとゆう(N：えー)そうゆう観念はなかったですよ。(N：||あー)

A：||このこの考え方とゆうのはたぶん教えこまれた……

N：||なるほどね。

C：||むしろ……

A：教えこまれた思想じゃないかと思うんです。

C：||あるのは今。

A：||今の今のあの大陸の、あの共産主義みたいな(N：あーあーあー)ああゆう考

え方。

N: まあ作文ですからね。

A: えー。教えこまれた思想なんですよ。と思うんですね。だからたとえば我々のクラスあたりではこういうことやったらそんなばかなことあなたがたゆう。こう言いますよ。(笑い)

N: なるほどね。

C: 今夜の8時。(N: えー。)夜レンジクゲ連続劇といますか? えー、夕台湾の材料取材して、あれで台湾のあれなんと言いますか芸人ですか?(N: うーん。)芸人がやってるの?(N: あー。)非常に俗っぽい。(N: ふーん。)あれであの人たちが使ってることばはほんとうに下品。(NA: 笑い)これは間違いない。

N: 今のほうが感じますか。(笑い)

C: えー。だからいつも家内と話してる。(N: えー。)おかしいねえ、僕たちの台湾語どうしてこんなに下品なことば? 聞きづらい。(N: あー。)あれであれはお嫁さんがおしゅうとさんにいじめられてるとゆうあればっかり。涙をこぼすやつ。(N: えー。)で家内はとつても見たい。(全員笑い)僕はもうあの下品な台湾語聞くのが嫌いで、で8時になったら僕は必ず外へ出る。うん。

A: 外……(AN笑い)

C: うん。

N: そうですか? あーそうすると……

C: で、ほんとうに台湾語が嫌いになったのは今使ってるあの8時の連続劇。(N: うん。)あれは恐らくみんな学校行ってないお方らしい。

S: なんてゆうなんてゆう劇のお名前ですか。【同席の酒井氏の発話。氏の発話はこの箇所のみ】

C: お嫁さんがいじめられてるのよ。

A: どの? タイ台湾テレビ? ポ僕今見ないけど。(N: 笑い)

C: うーんねー……

A: ティーティービー? タイスイー? 【TTV、「台視」(台湾テレビ)】

C: ツァンスイー。ホワスイー。【「中視」(中国テレビ)、「華視」(中華テレビ)】

A: ツァンスー [] 中華中国テレビ。

C: [] ティーイーシューチャ。ティーイーシューチャ 【「第一世家」。人気のあったテレビ番組名】とゆうのはなんと言います?

A: 第一? 【Aが題名を紙に書いて示している】

A: これ?

C: トイトイトイ 【「はい」の意。中国語での話題になったので思わず中国語で返事をしてしまった】。えー。

A: それから?

C: えーあれやって、あれが見てるのはなんだ、トァンツァン 【「断掌」】……

B：てのひら。

A：あーあーあー。プリンチン【意味不明】……

B：スンニャン。スンニャン。スンニャン。【「順娘」。「断掌順娘」はテレビの番組名】

A：スン、どっち？

B：順序の順。

A：は一ん。

C：今見てるのこれ。これの前見てたのはこれ。これの前、ナン……【紙に書かれた文字を読みながらの発話】

A：これはホワシー。【「華視」】違う？

B：家内は見るけど自分はあんな時間がない。(笑い)(N：笑い)

C：あれ実に下品。

N：なるほどねー。

A：これねー一部の人に言わせると、とにかく国民党が意識的にそれやってるって。

(N：あー。)台湾語でやると||こんなに下品になると。(N：||なるほど。)

C：||ところが、普通のたとえばA君、B君、わたくし。あんなことば使わないですよ。

A：そうですよ。(笑い)(N：うん。)

C：あれテレビでやる下品なことばばかり集めてそれを使ってる。

N：なるほどねー。わかりました。そうするとあの子供の頃にそうゆう台湾語が卑しいとかそのそれしか使えない人が卑しいとか、||そんな気持ちはなかった？

A：||全然〔ないですよ。〕

C：||ないですよー。

B：あんまり聞かないですよ。

C：今でも僕たちが使う僕たちがお話しする台湾語はやっぱり立派ですよ。どうゆうわけかあの台湾人がわざわざ一番聞きづらいみっともない台湾語を使っている。(N：はい。なるほどね。)

A：だからこれ多分非常にあの教えるこうゆう風に教えられたとゆう可能性が大きいですね。(N：なるほどね。)先生がこうゆうから。(N：うんうん。)コこうゆうふうになんか作文になってしまう。(N：なるほどね。)事実子供がこんなこと考えるととは思わないけどね。(笑い)(N：なるほどね。)

C：だから今使ってる台湾語、テレビで使ってる台湾語を台湾語だと思われたら大変。(N：うーん。)

A：あのね台湾大学にリー李鴻禧〈リコウキ〉とゆう憲法学者がいるんですよ。あの人の演説なんか台湾語でやりますけど実にうまいですよ。非常にいい台湾語使いますね。あの人ユーモアもたっぷりだし最近少し体こわしてるけど。

N：あのーそうですよねあのーちょっともう一つだけちょっと読んでもらいたいのがあるんですよ。(C：はい。)ちょっと長いんですけどこれはあのー日本のあの先生で、あのー要するに台湾で教育に当たった先生なんですけど、木村さんとゆう人なん

ですが、要するに台湾が、日本語国語教育が非常に成功したってゆうことを書いてあるんですね。それはあの日本が台湾の人たちに対してやっぱりあの一、内台一如でってゆうまあそんなようなこと書いてるんですねー。【参考資料3】【文章を読むためしばらく沈黙が続く】

A：まああの頃あの頃のあれ見ますとねー、立派な心掛け持ってる人も少なくないし、
(N：えー。) それが始めからもうそれこそ*みたいな精神持ってる人も少なくないし (笑い) ……

N：こうゆうあの日本の日本人がこんな || 大体考え……

A： || 考えもあるでしょうけどねー……

N：結構多いんですねー。

A：えー。こうゆう考えもあるでしょうけど結果から見るとそうなるんですよ。

N：うーんどこうゆうのを読んで、どんな風にちょっと感じますか？ (笑い)

A： || そうですねー……

C： || うん間違いありませんよ。(N：うん。) あんときの日本人は台湾人と日本人は、こうはっきり区別しておりました。(N：うんうん。) 僕たちの校長先生でさえ。(N：はい。) ああ君たちは兵隊にならんでよろしい。(N：うん。) だからもう決して日本人ではない。(N：うんうん。) 君たちは台湾人だ。(N：うんうん。) 僕たちは立派な日本人〈ニッポンジン〉だ。【この箇所のみ語気を強めニッポンジンと発音】
(N：あー。) あー。これははっきりとけじめをつけておった。(ふーん。ふーん。) そのかわり、だからといって (N：えー。) 特別に台湾人をいじめたとゆう記憶ですわ、(N：うーん。) やっぱりありません。

N：あーなるほど。

C：えー。あれでー今考えてみてですねー、うーん比べてですよ、(N：えー。) 中国が来てから (N：はい。) それからー (笑い) 日本が来た、あのときはお爺さんの時代だから。結果からゆうと日本人が台湾人に対するあの態度、中国人が台湾人に対する態度、比較すれば日本人が台湾人に対する態度のほうが良かった。(N：うん。)

A：全般的に || 良かったね。

C： || それだけは断言できますね。

A：まあ教育やったとゆうことは非常に || 大きな業績ですよ。

C： || だから、台湾は僕たちの時代二つの国に治められた。(N：うんうん。) でどっちがいいか、(N：はい。) 比べられる。

A：そうですね。(笑い)

N：うんうん。(笑い) なるほどね。

C：百点ではない。無論百点ではないけれど。こっち中国人はまあ30点ぐらい。(N：はい。) で日本人は百点でないけど少なくとも70点ぐらい。(N：なるほど。うんうん。) だから自然にこう、あーあの頃は良かった。あの頃は良かった。たとえばうーんなにか申請するでしょう？

N：うーん。

C：今必ずお金を先に、ホンパオ【「紅包」賄賂のこと。】先に持つてく。(N：はー。)
日本のときはホンパオなんてそんなものない。(N：うんうん。)夜寝るとき、あー、日本人のときは戸締りしなくてもいい。(N：笑い)(N：うん。)あー今はもう戸締りだけじゃ足りない。

A：テツ鉄格子まで……(笑い)(N：笑い)

C：鉄格子つけなきゃだめ。あー。昔はこう駅になにか荷物忘れた、あるいはお金落とした。(N：うん。)警察行けば、まだもらえる。必ず拾った人が警察届ける。駅に忘れたものは駅長が必ず残してくれる。今、(N：うん。)なくしたらもう絶対返らない。うん。(N：なるほどね。)で今人殺しとかなんとかもう、(N：うんうん。)うんざりするほど見ている。聞いている。(N：うん。)昔僕が物心知ってから、犯罪人というのを二人だけ見た。二人。(A：笑い)(N：はい。)うん。13歳なるまで。(N：はーはーはー。)あのときはオー街中がお祭みたいだ。あの犯人はシこう縛られて、細びきで、後ろ縛られて、あれでなんて言います？今虚無僧みたいな……

A：編み笠〔かぶって〕。(笑い)

N：編み笠ですか？

A：編み笠。

C：あれであのときの埔里〈ホリ〉の街はこんなに……

A：にぎやかじゃないから。

C：大きくない。百メートル四方こうぐるっと回れば4百メートル歩けばいい。4百メートル回ってぐると歩かせるわけですね。それから連れ出す。それが一大犯人。ほんとはなにか盗んだだけ。(N：えー。)鶏盗んだか、なにかそれだけ。あのときの、埔里のこの……

A：大事件だった。(笑い)(N：あー。)

C：治安のよさですねえ、(N：なるほどねー。)素朴といいますか……

B：日本時代日本時代やっぱり治安がとっても良かったわけですよ。(N：うん。)

C：ふたり。(N：なるほど。)13年間……

B：放火するとゆうこと考えられないです昔はね。(N：あー。)えー。放火するとゆうのはね。そんなこと考えられない。今ではあちこち聞く。

C：1歳から6歳までわからないとしても、あと6年間ある。6年間にココそどろが二人。(AN：笑い)

N：やっぱりそうゆうあの治安のよさってのはやっぱり日本が統治していたってゆうその影響がありますか？ゲー原因が。

C：そう。これだけは間違いない、比較できるから。(N：あーあーあー。)

B：あの時代はなかなか厳しいよ。日本時代。(C：うん。)罪がなかなか重いよ。おんなじ罪をおかしてもね。罰がとともひどいよ。(N：うーん。)だからやっぱり怖が

るわけだ、日本人はねえ。

N：こわがる？

B：えー。罰罰せられるのがこわいわけ。だから悪いことシしかねるわけですね。

A：|| まあ教育が一番でしょうね。

C：|| 恐喝とかゆすりとか、そんなことは小説にしかない。(AN：笑い)

A：特に埔里はもうなんてゆうかこれはもう桃源郷だからねー。(C：|| うーん。)(N：|| あー。)特に埔里はそうなんですよ。(N：あー。)桃源郷。台中なんかも割りと良かった。今台中とゆうのはわたしの目からみるとあれはもう卑俗の国。(笑い)(BN：笑い)ひどいもんですよね。ボ僕たちのあのイメージにある台中とねー全然違う。(N：あー。)

B：昔の人はワ悪い人が少ない。とても少ないですね。(N：あー。)そういう感じがする。

A：金持ちになってからますます悪いですね。(N：はーはーはーはー。)

B：今の人は|| ワ悪い人がとても多い。そういうような気がする。

A：|| ここ最近近年ここ十年ぐらい金持ちになってからどんどん悪くなった。金持ちでない方がいいですよ。(笑い)(N：笑い)

B：目標が大きいからね。(笑い)

A：うん。いや全体にね、国民が金持ちでないほうが安定してた。(N：あーなるほどね。)今はだめね。だからことばだけでそういう今の若い人もそりゃ北京語ばかり使いますけどね。(N：うん。)教育語だからしょうがないですよ。(N：うんうん。)うちではやっぱり台湾語使うし。(N：うんうん。)わたしの孫なんか聞いてわかるけど返ってくることは北京語なんです。(笑い)(N：あー。)台湾語言えるんだろってゆったらやっぱりめんどくさいってゆうんですよ。考えなけりゃ言わなきゃいかん。言わないといかんからどうしても北京語で返ってくる。ただし聞いてはわかる。(N：うーん。)そういうの一つの家庭でも何か国語使つてるとゆう変な、(N：なるほど。)アメリカ行ってる家庭もつとひどいでしょ？4カ国語が使えるでしょ。それから客家〈ハッカ〉があるでしょ？客家の人がねー日本語使つて客家使つてあの福建語使つて英語使つて|| []。(笑い)(N：|| なるほどねー。ふーん。)だからそういう点でこのことばがこのことばより優れてると、あんまりそれ考えないんじゃないですか。(N：あー。)一部の人はそういうかも知らないけど、まあこうゆうまあ一生懸命日本人が一生懸命所謂国語教育やった、(N：はい。)その目的はやっぱり早く自分の助手を作ろうとかなかにか政策遂行するときも便利になようと、(N：うん。)実利的な問題じゃなかったですか？(N：うーん。)日本国民、良く日本国民にしようとするのはこれは作文ですよ。(笑い)(N：なるほどね。)結果として非常にいいですね。(N：うんうん。)たとえばあの結局日本人が全部引き揚げても、中国からあの質の悪い人が沢山来ても、(N：はい。)

ちゃんとうまくできたとゆうのはこの日本時代のこの国語の普遍ですな普遍的な国語であの教育でね、(N: うんうん。) 教育がこんなに普遍的になったために、(N: うん。) すぐ切り換えてきたわけですよ。(N: あー。) 北京語にすぐ || 慣れてしまった。(N: || なるほど。) 僕たちが北京語習ったのはニジュウ21過ぎてからですよ。

(N: うーん。) 大体2年ぐらいの間で大体もうわかるんですよ。話す方は下手でもね。(N: うんうん。) 読んでわかるし書けるぐらいにはなっただすから。だからそれはどっちが、これはあんまりこうニホンニホンコ立派な日本国民にしようと思って教育した、その結果が良かったとゆうと (N: うん。) 僕たちはちょっとあの、反感感じますね。(笑い) (N: なるほど。) (N: 笑い) 要するにニホン日本語を教育してあの各方面で便利ないようにしようとした、(N: うん。) それは間違いないでしょうけど。(N: うんうん。) 同じようにあの一ベトナム戦争ではじめてわかったんですけど、(N: はい。) ベトナムはフランス人が80年占領してたでしょ?

(N: うん。) それで教育の普及率とゆうのは台湾の半分もないですよ。(N: うんうん。) 恐らく5分の1もないでしょう。(N: うんうん。) そのフランスの態度と日本人の態度を見ますと、(N: うん。) 日本人最後に最後に引き揚げるとき台湾のあの一所謂初等教育の普及率とゆうのは90パーセントぐらいだったんですよ。(N: うんうん。) ベトナムはそうじゃないですよ。それだけあの教育に対する熱心さとゆうか (N: うん。) それがあとあとでこの経済経済的な奇跡を遂げる (N: うんうん。) 朝鮮がそれでしょ? (N: うん。) 朝鮮も一生懸命やりましたよね。

(笑い) 日本人も要するに教育やった。その基礎ができてから (N: うん。) 新しいあれを受入れることができた。(N: なるほどねー。うーん。) それはまあアメリカからであろうと日本からであろうと、要するに新しいもの受けるためには教育がフキユ普及してないといけなと。(N: うんうん。) その普及、教育の普及に対してわたしたちは百パーセント〈ヒヤッパーセント〉賛成なんですけどね (N: はい。) これをニホンニホンコ立派な日本国民にしようとしてやったから、結果においてそうなったとゆわれるとちょっとハ話が違いますね。(笑い) (N: なるほどね。) ただし危害を加えなかったのは間違いないです。

N: はい。なるほど || あのー……

B: || 特殊特殊な人以外はね。

N: なるほどね。もう一つ、あのーちよと話は違うんですが、あのー子供の頃歌った歌で今やっぱり口について出てくる歌ってゆうと || どんな歌になり……

A: || たくさんありますねー。あの唱歌。小学校唱歌。(笑い)

N: 日本の歌が多くなりますか?

A: 小学校唱歌。

N: やっぱり……

C: 夕焼け小焼けね。(N: ふーん。)

- A：小学校唱歌とゆうのはいいですねー。(N：うーん。) それからまエン最近では演歌でしょうね。
- N：演歌ねー。あのー台湾のももとのこう童歌〈ワラベウタ〉ってゆうかそうゆう童謡ってゆうか台湾の土着の歌ってゆうのはあまりなかった？ 〓 あったんでしょうね。？
- C：〓 僕たちの……
- A：〓 ありますけどねー、ちょっと 〓 あの……
- N：〓 そうゆうのはベンあまり覚えなかったですか？
- A：〓 うーん 〓 できることは……
- C：〓 なかったですねえ。その方面は台湾、なんといいですかー、〓 遺産といいですか 文化的遺産は残念ながら……
- A：〓 できることはできたけど……あれまあ歌ってゆうほどじゃなくてたとえばうーん……
- C：ヨウアヨウ【「揺ゆ揺」子守り歌。】〔 〕
- A：ああゆう…… (笑い)
- B：やっぱりね若いとき小さいときに 〓 習った歌は (A：〓 覚えた……) なかなか忘れられないです。わたくしがコー光復後終戦後ねオ覚えた歌なかなか覚えにくい。
- N：あーそうですねー。 〓 それを……
- B：〓 にじゅうなん歳なってから新しい歌を覚えるとううのはなかなか……
- A：〓 演歌だけは覚えてるけど。(笑い)
- B：〓 すぐ忘れてしまう。
- N：〓 あのー夕焼け小焼けとかさそうゆう歌ですよねー。(C：そう。) そうすると台湾の元々の、皆さん台湾の人でいらっしやるわけで元々の台湾の歌ってゆうのはなかなか……
- C：なかったですよ。
- N：なかったんでしょうか？
- A：童歌みたいなありますけどあのー一節を 〓 ちょっと節をつけて……
- B：〓 なかなかキキ聞く機会が少ないです。
- N：少ない。
- C：一つか二つだけ。(N：あー。)
- A：それ、それねちょうど日本の 〓 なに……
- C：妙に貧弱ですよ。 〓 残念ながら。
- A：〓 どんな歌かなー……
- C：〓 よく……
- A：〓 まあたとえば通りゃんせぐらいのああゆう調子の歌。
- N：あー。ああゆう感じのものね？

- A：ちょっと節をつけてコンコンなんてやるでしょ？ウェイウェイコンコン []
ああゆう程度のものね？
- B：|| 少ないです。|| なかなか少ないです。
- C：ときどき家内とこう話しますけどねー、中華文化の復興と言いますか（N：うん。）
あれ民族舞踊。（N：うん。）民族舞踊とゆうのを非常に奨励したわけですよ。（N
：うーん。）ところが情けないことに台湾の民族舞踊とゆうのが僕たち門外漢です。
（A：笑い）
- N：そこをそこをねーお伺いしたかったんです。（笑い）
- C：デ出てきたのが高砂族の、（N：あー。）舞踏。（N：なるほど。）（N：笑い）これは
台湾の、なんだか民族舞踊かなー、えーその次に出てきたのが箸を持ってですね
チャッチャッチャツとやる。（N：あー。）これは新疆のあの [] 踊りじゃな
いかと。台湾僕台湾人だよこれ。僕30歳の台湾人が見たこともないやつ、それを新
疆のオゴル族【「ウイグル族」の誤りか】の踊りが台湾の民族舞踊か？第三番に
できたのが首をこう回すやつね、あるでしょ？
- N：（笑い）でね先生？
- C：はい。
- N：先生御自身がそうゆう台湾のねー、あの歌だとか（C：うん。）踊りとかってゆう
のをこう日本の支配の中でね、覚えることができなかつたってゆうか、そうゆうの
はやっぱり残念に思いますか？|| 仕方がないとか……
- A：|| そうゆう、覚えることができなかつたって元々そうゆうものが少ないんですね。
- N：|| 少ないんですかねー？
- C：|| そこでひしひしと痛切に|| 感じるのはねー、……
- A：|| 元々それ少ないんですよ。
- C：台湾は元々（N：うん。）文化財がなかった。
- N：あー。元々それやっぱりない？|| 少ない？
- A：|| ないですよ。はい。
- C：|| はー。（N：はーはー。）ほんとうになかった。残念だけどどうしてこの民族舞踊
とゆうのがこんな（N：ふんふん。）タイ国とかどっかのこのこのあれ。台湾人の
本心の、じゃ踊りってなに？
- A：|| ない。（N：うん。）
- C：|| 見たことない。
- N：なるほどあーそうか。
- A：大体においてア漢民族が持ってないんじゃない？|| そうゆう感じがします。（笑い）
- C：|| ただあるのがなんと言いますか？台南か（N：えー。）どっかある、ペーペーチ
ャ【意味不明】グーチャ【「牛車」の意】と言いますか、二三人の男と女がこう、
簡単なこう踊りをやる（N：|| はー。）……

A : 〓 あれも……

C : 非常に単純なみっともない踊り。(N : 笑い)

A : 〓 ゲンジュ原住民であるかもしらんよ。(笑い)

C : 〓 みっともない。だけどいやーこれがほんとうの台湾人の踊りだ。これ一つだけ。

N : やっぱり民族、歌はあんまりスクやっぱりない少ないですか？ 〓 台湾は。

C : ないですねー。(N : あー)

A : 大体みんな辺境のね (N : えー。) 辺境の歌ばかりなんですよ。(N : はー。) それを民族の歌と称してますけどね。

N : えー。辺境とゆうのはあの高砂族ってゆうんですか？

A : いやこちらもそう。大陸の方でもね。(N : はーはーはー。) 新疆とかウイグル族とかチベットとかね、こう周りの…… (笑い)

N : あー漢民族に比べて？

A : えー。漢民族漢民族独特のはないみたいなんですよねー。

N : なるほどねー。あー 〓 そうですか？

C : 〓 台湾の僕の13歳、1歳から13歳までの記憶、台湾の民謡、いわゆる台湾語で歌える歌。さっきゆったヨーアヨー チーメートア チーツン 【「搖啊搖一冥大一寸」。(「一晩で大きくなる」といった意) 〓 これだけ。

A : 〓 子守り歌ですね。

N : 〓 あれあの民謡ってゆうか伝説ってゆうかそうゆうのはどうなんですか？日本だとあのー桃太郎とか (C : うん。) ソ桃太郎のお話はもちろん……

C : 〓 うーん……

A : 〓 そりゃもちろん……

N : そういった台湾独特のそうゆう昔話ってゆうそうゆうのは 〓 おじいちゃんとかおばあちゃんに聞いて……

A : 〓 そりゃーあるありますね。

B : やっぱりありますよ。

A : おばあさんなんかよくおばあさん教えてくれたけど。

N : そうゆうのやっぱり覚えて……

C : そう。それはありますよ。台湾のお伽話。うーん……

A : でもあんまり覚えてないね。(笑い) (N : 笑い)

C : 特にここのお方ね。(N : はーはーはー。) ここのお方がまあ先住民族ですか？ (N : えー。) (A : ふーん。) 平埔族〈ヘイホゾク〉といますか。(N : はーはーはー。) 僕たちとまた違った一族。

A : 〓 ここ？

C : 〓 この台地。

A : 〓 そう？ほー？

N：|| あっそこにいるわけですか？

C：これこれ。ここここ。

N：あーそうですか。

C：えー。

N：何族ですか？

C：平埔族と|| 言いますか？

N：|| 平埔族？

C：|| 僕たちは……

A：|| 平地平地にいる平地原住民。

C：僕たちは熟蕃と書きますがねー。

N：はー。熟蕃？

C：成熟の熟。(N：はー。) 熟蕃とって|| あれで普通……

A：|| 平地。接触接触多い。

C：僕たちはあれたちとこう通婚しない。(N：ふーん。) あー彼等は彼等でこう通婚する。うーん風俗習慣が随分違う。(N：はいはい。) たとえば台湾人はこう従兄〈イトコ〉同士は結婚を避けるべき。(N：うん。) あそこはイ妹姉さんの子供はしてよろしい。だから全部落みんな親族。(N：ふーん。)

A：はーん。そうすると山の方？

C：ここよここ。

N：|| すぐそこですか？

C：|| ここの部落よ。

N：はー。

B：ほー。

C：ここここの台地の上。

A：目の前の？違う？

B：|| 間の。

C：|| えー。

A：もっと向う？

C：|| これよこれ。

B：いやこの前の〔 〕。台地。

C：目の前の、目の前のこの部落よ。

A：そうかそれ親父も話したことないな。(笑い) (N：笑い)

C：うん。

A：ほー？(笑い)

C：あれでここの僕のおばあさんの妹がここにいる。(A：はー。) いる。ここリュウ龍眼〈リュウガン〉がよくなるから。(A：ふーん。)(N：あー。) 子供時代によーく

ここへ来る。

N：あーそうですか。

C：イーボ【「姨婆」祖母の女の姉妹】とゆーところへ。

B：|| だからー……

N：あの一……

C：|| 龍眼とりに来る。

N：あの一今ね（C：うん。）お聞きしたかったのはあのモモ日本そうゆう民話 || 昔話
ってゆうとですわね……

C：|| そう。今その昔話するのよ。

N：あるってゆうわけですね。|| 先生あれ……

C：|| そのイーボがここへ来て龍眼とるのはいいですよー。（N：あー。）お隣とか後ろ
とかあそこの龍眼やパインは絶対にとっていけない。（N：うん。）あそこはこうな
んと言いますか、あの平埔族、熟蕃のこと、サンモア。サンモアどんな字書くな
な一。

N：あー。あーそうですか。|| はい。

C：|| サンモア。

N：そうゆうんですわね。

C：まあ……

A：一種差別してるんだろな。（笑い）（N：笑い）

C：〔あときは、〕これみたいらしいですわね一。【手を巫女の手のように構える】（N
：あー。）魔術が使えるばあさんね一。

N：|| いるんですわね一。（笑い）

A：|| 巫女。巫女みたいな……

N：あーそうですか。

C：こう赤い、赤い毛糸をこう龍眼の木にしぼりつけてる。（N：うーん。）（A：はー
ん。）あれでまじないかかっている。（N：うーん。）（A：はーん。）君が手をのぼし
てあの龍眼をとろうとする、あつもう手が離せられないと。（A：笑い）

N：なるほど。（笑い）

C：うん。絶対に手出しちゃいけない。（N：あー。）どんなにこうこう垂れていても手
の届くところへ絶対にとっていけない。

A：そうゆう話があるんだなあ。（N：あー。）

C：もしも運よく取って食べたら、このこのこのイーボが夜中にこう猫をつかまえてき
て、（A：笑い）あの自分の目玉をこうこう取り出して、猫のこう目玉と入れ替え
る。

N：あーそうゆう話を……

C：うーん。

B：オドおどすわけだな。

C：うん。あれでバナナ、バナナですね、バナナのこのこの葉っぱ2枚切って、こう取ったら || ばたばた飛べる。

A：|| 空飛べる。空飛べると。

N：|| うーん空飛べる。

C：うちまで飛んでくる。

N：なるほどね。(笑い)

C：おー。(N：ふーん。)

A：そうゆう話僕らのところじゃわからんな。|| 聞いたことない。

C：|| あー。それがこわくてねー。(N：あー。)

A：そうか。こうゆうところ結局接点だからねー。

N：なるほどね。それでそういったやっぱりこの一話をおじいちゃんとかおばあちゃんとかに聞いて育ったわけですね。

C：そうそうそうそう。

参考資料1 齋藤義七郎「台湾に於ける言葉をめぐって」(『外地・大陸・南方日本語教育実践』1943年) 所収「ことばのむづかしさ」

公学校に居た時分「だ、ら」「ど、ろ」の発音が分らなくて、「だ」といふ所をらといつたりらといふ所をだといつたりして区別がつきませんでした。或日の読方の時間に、先生が黒板に、

「どろどろしたどろみちに、よひどれがころんでどろだらけになつた」

と、書かれて、端の列から一人一人言はせましたが、一人として終りまで言へた人はありませんでした。(中略) 鐘が鳴つて一時間は終りましたが、先生は「日本人に生れて日本語が正しく言へない人は外国へ行け」と叱られました……私も日本人でないやうにいはれて涙がとめどもなく流れました(下略)

参考資料2 同上所収「美ちやんの言葉」

豊かな頬を薄赤くそめて、美ちやんはお風呂から上つて来た。美ちやんはお兄さんの子で六歳ですが、年に似合はずお話が上手だ。美ちやんは例の丸いかはいいい眼をくるくるさせながら、いつの間に覚えたのか、私にうまく話せない台湾語で、

「おばちやん、お勉強すんだら桃太郎さんのお話して頂戴ね」

とねだつた。

「おばちやん忙しいから、あつちへ行つといで」

といふと、今度は国語で、

「おばちゃん、先生に叱られるの？」

と云ふ。人間は妙で、猿まはしの猿やうなもので、幼い頃には人が英語を話さうと、国語を話さうと、台湾語でも、遠慮なく覚えてしまふ。美ちやんは、台湾語でも、国語でも差別をつけてゐない。同じ一つの国語と思つてゐるらしい。そしてそれをうるさがりもせずに、どちらも覚える。いぢらしい美ちやんがかはいさうな気がする。

それで私は幼い美ちやんに、二つの言葉を覚える余計な苦勞をさせないで、立派な日本人、すなほな子供にしてやらうといふ考えが頭に浮んだ。

台湾語をいやしむのは、何だか父母の使つてゐる言葉をいやしむ事です、すなはち父母をいやしむやうな気がする。しかし台湾語は上品な言葉でなくて、却つて子供の純真な心をなくする方です。その他色々なわけで、私は、父母はたとへ不便であらうとも、美ちやんに国語だけを話せるやうに努力する事にした。

参考資料3 木村万寿夫「台湾における国語教育の思い出」(1966年『国語教育研究』12号)からの抜粋

なぜ台湾が朝鮮や満州などちがって、人心がおだやかで、敗戦国の日本人に対しても、戦前同様の心情で接したのであろうか。わたしはこれは領台五十年の善政と教育の賜物であると思う。台湾において今なお日本語が行われているのを、単に国語政策の「つめあと」として見る人もある。(「民族と言語の問題」豊田国夫、「台湾の表情」(東南アジア研究会)など)しかし、「つめあと」というのは、征服、被征服の関係において両者を対立的にみることであつて適切でない。わが国の台湾に対する態度は、諸外国のように単なる植民地としてみたのではない。台湾を内地の延長と考え、内台一如をその理想とした。だから、台湾における国語(日本語)の教育は、本島人を善良な日本国民に育成するための教育であつた。初等教育の最初から、日本語による教育が行われたのもそのためである。

今なお台湾で日本語が喜ばれるのは、言わば蒔いた種が生えたともみるべきものであり、異民族に対することばの教育の理想が具現されたものとして、世界に誇るに足る事実であると思う。

付記

本談話資料は話し手A、B、Cの三氏のご協力のもとに成つた。台湾の事情からお名前を公表できないが、三氏には心より感謝申し上げます。

(なかた としお)